

令和6年度 学校自己評価書(川南町立唐瀬原中学校)

※それぞれ、4段階で評価しています。(4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する)

項目	評価指標及び具体的目標	方策・手立て	自己評価		結果の考察・分析及び改善策等	関係者評価		学校関係者評価委員の意見
			項目	総合		項目	総合	
I 町民が生還を通じて学び、教育に参画する社会づくりの推進								
1	家庭教育支援の充実に努める。 ①家庭教育学級の計画的な実施 ②教育に関する情報の提供・発信	○家庭教育学級の活動内容の精選・工夫・実践 ○学級通信、学校ホームページ、C-Learning等による定期的な情報発信	4	4	①年間計画にそってケーキ作り親子体験講座、視察研修(日章学園体験・見学、高鍋ITセンター)を行った。また、町主催の教育講演会や町家庭教育学級合同講習会、ミニバーレーボール大会への参加もすることができた。 ②各学年・学級通信や保健だより等に加え、学校のホームページやC-Learningを活用して積極的に情報発信をすることができた。生徒・保護者へのアンケート調査では、「学校の情報発信」に関する質問項目において肯定的な回答の割合が高かった。(生徒87.2%、保護者93.6%)	4	4	○生徒よりもまず先に保護者が地域活動に参加する必要がある。 ○自治公民館活動への中学生の参加(地区祭りのボランティアなど)を進めてはどうか。 ○PTA専門部の反省の中で、家庭教育学級生の確保が難しいと聞いている。解決策として出ている「学年保護者全世帯を対象とする」とか「保護者に向けて呼びかけの場を持つ」とか、「募集のお知らせの際に活動の写真を掲載する」などの募集活動をさらに進めて欲しい。
2	学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進。(PTA活動) ①地域人材を活用した教育活動の実施 ②学校運営協議会の活性化 ③PTAと連携した活動の推進 ④保護者が参加しやすい教育活動の工夫	○Team Kawaminami 学びのネットワークづくり事業の積極的活用 ○学校運営協議会からの意見等を踏まえた教育活動の改善 ○PTA組織との協働を生かした教育活動の推進 ○保護者のニーズに応じた参観授業等の実施	3	3	①地域学校協働活動推進員を通して、様々な地域人材の協力を得る企画を進めた。総合的な学習の時間に2年生職場体験の受入先の依頼を行ったが、実施前日インフルエンザの流行があり、残念ながら事業所と相談のうえ中止した。2月の立志のつどいで2年生は、町移住のピーマン農家(佐師花恋さん)を講師を依頼した。 ②年間計画通り実施し、学校運営協議会委員の意見等を学校経営の改善に役立てることができた。 ③計画的にPTA三役会・運営委員会等を実施して保護者の意向を確認することができた。本年度は、さらに踏み込んだ組織改革にも着手する一方、PTA参観日行事(PTA学級対抗ミニバレー)にも着手した。保護者がより役員として参加しやすくなるよう手立てを進めた。	3	4	○職場体験学習の体験先は生徒に考えさせるのも良い。 ○インフルエンザの流行があり、2年生の職場体験学習が中止になったことが仕方ないことだから、体調管理にも気をつけさせたい。 ○学校運営協議会が主となる事業も企画してみてはどうか。また、総合的な学習のキャリア教育の部分に視点をあて、たとえば、「トロントロン軽トラ市」で、学校で栽培・製作した野菜や花、小物の販売を行う起業体験を企画してはどうか。
II 社会を生き抜く基盤を培い、未来を担う人財を育む教育の推進								
1	読書活動を推進する。 ①学校図書室の整備と組織的な運営 ②生徒の読書意欲を高める活動の推進 ③読書機会の充実	○町立図書館と連携した読書活動の推進 ○魅力ある学校図書室の設営と運営 ○本や新聞を読む活動の実践	3	※	①②③今年度も生徒が利用しやすい図書室の整備、図書委員会の活性化、読み聞かせ活動の実施等に取り組んだ。また、図書室にクリスマスツリーを飾ったりしながら、読書や図書室への関心を高める工夫を行った。また、定期的に地域の読み聞かせボランティアの方に来校していただき、読書への関心を高める活動を進めていく。また、町が実施したリーディングスキルテスト(読み取る能力)と学力の相關関係を調べ、ここに1つの課題があることが判明したので、教室や図書室に新聞を置き、読む機会を増やす取組をした。(読書冊数R6-2799冊／来室者数R6-2004名)※1/31時点	3	※	○自分の読んだ本を学級やとなりの人に、どこが面白かったのか等伝えると関心が高まるかもしれません。

確かな学力を育む教育を推進する。 ①生徒が主語となる授業づくりによる 読解力の育成 ②ICT(タブレット等)の活用 ③家庭学習の改善・充実 ④学びの場の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○読解力(語彙力、思考力・要約力、表現力)の育成に 視点を置いた授業改善 ○ICTによる特定の教科における自由震度学習の導入 ○タブレットや電子黒板等の積極的な活用 ○家庭学習の習慣化を図る指導の充実 ○放課後等の補充学習や公営塾への参加 	3	<p>①宮崎大学教育学部と連携して、川南町の取組であるリーディングスキルテストの結果分析と研修を行い、授業改善の手立て等について具体的なアドバイスをいただいた。本校は、段階5・4に該当する生徒が少なく、まずは1・2の生徒に手を入れるより、3→4、4→5の方向を探る方が現実的とアドバイスを受けた。4以上が他者にアドバイスができるレベルである。</p> <p>②数学科の一部の先生で自由進度学習を導入した。保護者評価アンケートの中の中に、戸惑いを見せる生徒・保護者もいることがわかった。今後の取組を模索中である。</p> <p>③昨年度と同様、継続して、授業・生徒会活動・学校行事等におけるタブレット端末の活用、タブレット端末の家庭への持ち帰り訓練及びオンライン授業に積極的に取り組んだ。夏休みには、AIドリルを夏休み課題の一部に活用した。アンケート集計では、C-ラーニングを活用して省力化を図ることができた。</p> <p>④アンケート調査の結果によると、「家庭学習」に関する質問項目における肯定的な回答の割合について、生徒と保護者・教職員で差がある。「主体的な学び」の実現のために、よりよい家庭学習の在り方について模索する必要がある。</p> <p>⑤町まちづくり課と連携して公営塾を開設し、3年生にとっての学びの機会とすることことができた。</p>	3	<p>○公営塾は親から見ても大変助かったという意見が多かった。勉強へ取り組む姿勢が変わった。</p> <p>○町図書館が主催(募集期間7月～11月初め)の小中学生を対象とした「読書感想文コンクール」に応募しているとホームページに掲載されていた。</p> <p>○PTAの家庭教育学級の研修、または参観日のPTA研修として、SNSのアカウントによるトラブル、危険性についての研修を進めていってはどうか。</p>
人権を尊重し豊かな心を育む教育を推進する。 ①人権教育の推進 ②道徳教育の推進 ③いのちを大切にする教育の充実 ④悩み調査や教育相談の実施 ⑤いじめ・不登校への組織的な対応 ⑥生徒を主体とした活動の推進 ⑦小中一貫した「心の教育」の実践	<ul style="list-style-type: none"> ○言語環境の整備と人権講話の実施 ○全職員で取り組む道徳の時間の授業実践 ○いのちの教育週間集会の実施 ○毎月1回の生活アンケートと定期的な教育相談の実施 ○いじめ・不登校対策委員会の定期的な実施 ○学校行事等における生徒会活動の活性化 ○町NF教育研究会による「川南レインボーサミット」への参加 	3	<p>①②年間を通して計画的に人権に関する学習や道徳の授業を実施した。県青少年育成県民会議メディア安全指導員 黒木真一郎さんを招聘して「SNSとの上手な付き合い方 身を守る方法」に関する人権講話を行った。生徒へのアンケート調査では、「いじめ」や「善悪の判断・おもいやりの心」に関する質問項目において今年度も肯定的な回答の割合が高かった。 (「いじめは絶対にダメ」:97.1%、「善悪の判断・おもいやりの心」:94.7%)。</p> <p>③今年度も薬物乱用防止教室、がん予防教室、性教育に関する授業を実施し、年間を通して計画的にいのちを大切にする教育(生徒会主催)に取り組んだ。</p> <p>④定期的に悩み調査と教育相談を実施した。</p> <p>⑤いじめ・不登校への組織的な対応について毎月、委員会を開催し、生徒指導部や学年組織等を活用して、組織で継続的に対応するようにした。</p> <p>⑥生徒が主体となって、生徒会活動の活性化や体育大会、文化祭、修学旅行等の学校行事の企画・運営に取り組んだ。自分で考え、行動し、振り返ることができるようになってきた。生徒と保護者へのアンケート調査では、「学校行事や生徒会活動の取組」に関する質問項目において肯定的な回答の割合が高かった(生徒:82.2%、保護者:78.1%)。今後も生徒主体の教育活動を推進していきたい。</p> <p>⑦「川南レインボーサミット」への参加を通して、中学生としての自覚や行動力の醸成に努めた。</p>	3	<p>○生徒が主体となって、生徒会活動の活性化や体育大会、文化祭、修学旅行等の学校行事の企画・運営に取り組む活動を今後も継続して欲しい。</p> <p>○体育大会、文化祭の運営ばかりでなく、儀礼的行事の一部(新任式・離任式等)から、生徒による企画・運営を進めていってほしい。</p>

5	<p>郷土を愛し地域社会に参画する態度を育む教育を推進する。</p> <p>①ふるさと学習の充実 ②地域活動への積極的な参加 ③川南町歌を歌う機会の充実</p>	<p>○地域の人材や資源を活用した地域交流学習の実施 ○町行事、地域行事等への積極的参加 ○学校行事における町歌斎唱の実施</p>	3		<p>①総合的な学習の時間において、ふるさと川南に関する学習や職場体験学習等を計画的に実施した。しかし、インフルエンザの流行により、職場体験学習は中止となつた。 ②モーツァルト祭への吹奏楽部の出演、ロードレース大会inかわみみなみ等への諸イベントボランティアスタッフとしての参加、ジュニアリーダーの活動等、地域活動に参加する生徒が増えた。 ③各行事において川南町歌を歌う活動を継続している。</p>	3	<p>○フェスティバル等のイベントがどのように形づくられているかを参画できると良いと思う。 ※プロジェクト会議等への参加を通してなど ○学力向上はもちろんのことだが、地域の方々とのふれ合い体験、また中学生でないできない体験をたくさんつくってほしい。 ○中学生の自治公民館組織の活動への参加を促してほしい。</p>	
6	<p>キャリア教育を推進する。</p> <p>①「キャリア・パスポート」及び「生活の記録」の活用推進 ②地域人材等を活用した活動の推進 ③進路指導の充実</p>	<p>○「キャリア・パスポート」及び「生活の記録」を活用した「振り返り」の習慣化 ○職場体験学習や職業人の声を聞く会の実施 ○高校説明会や三者相談の実施</p>	3	※	<p>①学校行事を終えた後に、「キャリア・パスポート」を活用して目標の設定や成果の振り返り等を行うようにした。 ②様々な教育活動において積極的に地域人材を活用した。 ③計画的に高校説明会や三者相談を実施して、生徒の進路意識の醸成に努めた。生徒へのアンケート調査では、「進路への关心」に関する質問項目において肯定的な回答の割合(80.2%)が高かった。</p>	3	※	<p>○様々な教育活動において積極的に地域人材を活用する場面で、保護者をどんどん活用して欲しい。 ○キャリア教育の場面で、生徒が興味をもつ地域人材の活用を図って欲しい。</p>
7	<p>社会の変化に対応した多様な人材を育む教育を推進する。</p> <p>①個に応じた教育支援の推進 ②ICTを活用した個別学習の充実</p>	<p>○生徒一人一人の良さや頑張りの称賛・紹介 ○子に応じた学習内容の選択・提供(タブレット)</p>	3		<p>①今年度も生徒一人一人にしっかり関わることを大切にしながら、教育的支援を行った。 ②生徒がタブレット端末を活用しながら自分のニーズに応じた学習課題等を選択できるような授業づくりに努めたり、生徒一人一人の状況に応じた柔軟な使い方の工夫に取り組んだ。した。今後も「個別最適化」に向けた取組を推進していきたい。川南町全体で導入したAIドリル「スマイルネクスト」については、夏休みの課題の一部として取り組んだ。しかし、一方では文字や文章を書けない国語力が低い生徒が増えていることは否定できない。</p>	3		<p>○授業の中で、新聞の内容をとなりの人に教えるような取組や時間をつくるといいと思う。</p>

III 教育を支える体制や環境の整備・充実						
1	教職員の資質向上と働き方改革の推進に努める。 ①コンプライアンスの徹底 ②職員研修の実施 ③風通しのよい職場環境づくり ④新しい研修制度を踏まえた校内研究の工夫改善	○コンプライアンスチェックシートの活用等による教職員の意識向上と実践化 ○服務規律の徹底に関する研修機会の設定 ○一人で抱え込まない関係づくりの推進 ○リーディングスキルテストの結果分析及び宮崎大学との連携を生かした授業改善等	3	①年に2回、コンプライアンス・チェックシート集計結果を活用して研修を実施した。コンプライアンス意識の向上を図るとともに、職員研修を実施して服務規律の徹底に取り組んだ。また、後期の研修では、チェックシートで落ち込んでいた文書セキュリティの内容を研修に入れた。 ②職員のニーズによる職員研修を実施した。 ③④職員同士で授業づくりについて意見の交流を図るようにした。また、各学年部における情報交換や協議を積極的に行い、学年・学級経営の充実に努めた。	3	○生徒は、学校では先生を見て育つので、見られていることを意識して欲しい。 ○特別支援の生徒の増加に対する教職員の研修をさらに進めて欲しい。
	安全、安心な教育環境の整備・充実に努める。 ①安全点検の実施 ②交通安全指導の実施 ③避難訓練の実施 ④通学路の安全確保 ⑤感染症対策の徹底	○要修理箇所の速やかな修繕 ○交通安全指導の徹底 ○関係機関と連携した避難訓練の実施 ○通学路危険箇所等の確認 ○生徒・保護者に対する情報提供の充実	3	①毎月、定期的に校内施設の安全点検を実施し、必要に応じて町教育委員会に修繕を依頼した。 ②④今年度当初に交通安全教室を実施するとともに、必要に応じて給食時の放送で交通安全の徹底について指導を行った。また、年間を通して、通学路の見回りや登下校指導を行ったり、PTA生活指導部による年3回の立ち番指導も行った。 ③計画通りに避難訓練（地震、火災）実施することができた。生徒へのアンケート調査では、「避難訓練や防災等に対する意識」に関する質問項目において肯定的な回答の割合が高かった。(87.2%) ④年間を通じて感染症対策を行ったが、インフルエンザによる1年学級閉鎖をせざる終えなかった。	3	○太陽光（ソーラー）発電のある交差点では、生徒は必ず停止する指導をして欲しい。 ※車が来ていなくても一時停止・確認 ○学校の登下校中の自転車のマナー、命の大切さをこれからもご指導よろしくお願ひしたい。 ○防災に対する意識が向上するようなPTA研修や防災学習の提案をしてはどうか。
IV 文化やスポーツに親しむ社会づくりの推進						
1	学校体育の推進に努める。 ①保健体育科の授業の充実 ②部活動の推進	○運動に親しむ生徒を育成するための授業改善 ○部活動の充実（運動部活動指導員や外部指導者の活用も生かして）	3	①運動量の確保に努めたり、タブレット端末の活用やグループ学習等を取り入れたりしながら、生徒が楽しく参加できる授業づくりに取り組んだ。また、体育大会において生徒がより主体的に活動できるように実行委員会の活動等を活性化させ、生徒の積極的な参加を促した。 ②地区中継体や地区中秋体等において多くの団体や個人が好成績を残すことができた。生徒へのアンケート調査では、「自己の健康保持増進」に関する質問項目において肯定的な回答の割合が予想より若干低く(78.1%)、今後も健康への意識を高めていく必要がある。	3	○地区中継体や地区中秋体等において、好成績を残したことは、大変素晴らしいことだった。 ○食育の強化を行う必要があると思う。